

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173501156		
法人名	有限会社グッドライフ		
事業所名	グループホームアウル登別館		
所在地	登別市若山町3丁目8番地45 (電話) 0143-88-3335		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年3月5日	評価確定日	平成20年4月10日

## 【情報提供票より】 (20年1月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <del>平成</del> 16年 3月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	16人, 非常勤 1人, 常勤換算 5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1~2	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000 円
敷金	<input checked="" type="checkbox"/> (100,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4	要介護2	4		
要介護3	4	要介護4	5		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 84歳	最低	65歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団恵友会 恵愛病院・さとう歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、開設当初に作り上げた理念を基に、地域及び他の事業所全体の資質向上に向けた取り組みを積極的に行っており、全職員が熱意を持って日々のケアサービスを実践している。また、利用者は、自分のペースを保ちながらゆったりと生活しており、一人ひとりにとって事業所全体が居心地の良い空間となっている。今後も、利用者職員が互いに支え合いながら生活するとともに、ケアサービスの更なる質の向上が期待できる事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題であった「職員の意見反映」について、日常的に職員間で意見交換を行い、日々のケアサービスに反映させている。また、利用者一人ひとりのライフヒストリー表を作成し、生活歴・個性・習慣を大切に支援を行うなど、改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>日々のケアサービスを振り返りながら全職員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果を真摯に受け止め、更なる質の向上に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族会に併せて運営推進会議を開催し、構成員との意見交換を行っている。また、会議を通じて地域に事業所への理解を深めてもらうよう働きかけるとともに、構成員と日常的に連絡を取っており、連携を図りながら更なる質の向上につながるよう努めている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時や広報誌送付の際に、利用者の生活状況等を家族に伝えていく。また、事業所内に意見箱を設置し、家族が意見・要望・苦情等を伝えやすい工夫をするとともに、職員は家族の来訪時に積極的に声をかけをし、家族が何でも話せるような関係形成に努めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域の行事や活動に参加したり、事業所の家族会や避難訓練等に地域住民にも参加してもらい協力を得るなど、地域との連携を図っている。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に全職員で作上げた理念を掲げ、利用者の思いに寄り添い、安心した暮らしの実現に向けて支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念カードを携帯しており、日頃から理念を確認し、日々のケアサービスにおいて実践できるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事や活動に参加している。また、事業所の家族会や避難訓練等に地域住民にも参加してもらい、協力を得るなど地域との連携を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々のケアサービスを振り返りながら職員間で話し合い、自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果を真摯に受け止め、更なる質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会開催に合わせて運営推進会議を開催し、構成員との意見交換を行うとともに、事業所への理解を深めてもらえるよう地域へ働きかけている。	○	今後は会議開催の回数を増やし、より活発な意見交換を行い、そこで出た意見を事業所の運営に反映させるとともに、更なる質向上に取り組むことが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談・質問等で日頃から市の担当者と連絡を取っており、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話や手紙にて利用者の暮らしぶりや健康状態等について、家族に報告している。また、来訪時や広報誌送付の際に、一人ひとりに応じた情報を提供している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置し、家族が意見・要望・苦情等を伝えやすい工夫をしている。また、職員は家族の来訪時に声かけをし、家族が何でも話せるような関係形成に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等があった場合は、職員間で十分検討し対策を講じるとともに、日頃からユニット間で情報を共有し協力体制を築くなど、利用者へダメージを与えないよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や段階等に応じた研修に参加する機会を設けており、職員は積極的に受講している。また、受講後は全体会議において研修内容を報告し、職員間で情報や知識の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	胆振地域のグループホーム広域連合会を発足し、定期的に研修会を実施するなど、同業者とのネットワークを構築しているとともに、協働しながら資質向上に向けて取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人・家族に見学してもらい、職員との面談を行い、事業所の雰囲気に馴染んでからの入居となるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や生活習慣等に合わせ、一人ひとりの得意な事や知識等を教えてもらうなど、互いに支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との日々の関わり合いの中から、希望や意向の把握に努めている。また、困難な場合は表情や行動等から把握に努め、その人らしい生活となるよう支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人・家族の意見や希望を取り入れ、ユニット会議で検討し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度、モニタリングを行い介護計画の見直しを行っている。また、状況に応じて本人・家族と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員間で話し合いを重ね、事業所としての機能活用等について検討し、利用者の希望に応じた柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃から協力医療機関の医師に連絡できる体制を整えており、相談したり往診してもらうなど、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の方針について、入居時や来訪時に本人・家族に確認し、全員で方針を共有しながら体制を整えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのない言葉かけに努めている。また、職員対象に、個人情報等の秘密保持の重要性についての説明や教育を行っている。	○	今後も、職員一人ひとりの気付き等について話し合い、よりきめ細かく配慮することが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースを大切に、一人ひとりの希望に応じた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じて食事の準備や後片付け等を、職員と一緒にやっている。また、和やかな雰囲気の中で同じ食卓に付き、ともに食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や曜日など、一人ひとりの希望に応じた入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員間で利用者の生活歴や力を活かせるよう検討し、食事の準備・配膳・後片付け・布団干しなど、一人ひとりの得意な事を活かした役割の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出し・ドライブ・町内会活動など、利用者の希望に応じた外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の理由から施錠しているが、日中は職員の見守り等により、鍵をかけずに利用者が自由に外出できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、夜間も想定した避難訓練を実施している。また、緊急時に地域住民や利用者家族から協力が得られるよう働きかけている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日確認するとともに、盛り付けや調理方法を工夫し、一人ひとりの健康状態に応じて栄養バランスを確保できるよう支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は音・光等に配慮され、木材が使用された室内はぬくもりが感じられ、利用者は思い思いに寛ぐなど、居心地良く過ごせる空間となっている。	○	今後も、廊下等の清掃などよりきめ細かな配慮がなされるよう、職員間で話し合い支援することが期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具が持ち込まれており、本人が安心して居心地良く過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。